

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.75】H22(2010).4.22
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

教育委員会の機構改革
～新年度がスタート～

桜前線北上の便りが届く時節となりましたが、この冬のドカ雪の影響もあって山々の残雪が冷たい春の風（時ならぬ強風！）が頬にあたります。

さて、教育委員会では４月より就学前子育て支援施策であります「認定こども園」の準備作業や保育所、季節保育所、子育て支援センターを所管し、既存の学校教育グループに学童保育所の業務も加え、子どもに関する業務を教育委員会が一体的に所管する体制のもとに、**幼児教育グループ・学校教育グループ・社会教育グループの3グループ体制**としスタートします。（但し、医療給付や保健（検診）、児童手当等は、従来通り保健福祉課が所管します。）また、０歳児から成人を対象とする母子通園センターについては、本町の特別支援教育推進体制の整備とも連動することが不可欠なことやせたな町との広域設置であることから平成２３年度の所管を視野に、保健福祉行政との調整協議を進めてまいります。

更には、障がいのある子どもたち一人一人が心豊かにたくましく育つ教育の推進と将来の社会参加や自立へ向けての支援を積極的に推進するため、学校の専門的なニーズに迅速かつ的確に対応することや関係諸機関とのコーディネート機能を図るため教育委員会に**「特別支援教育推進チーム」**を組織します。

各分野の新年度施策の柱です。

〔学校教育分野〕

１．学力の向上「今金町学力向上委員会」
２．教職員の資質・指導力の向上
３．地域ぐるみで子どもを守り育てる体制づくり
４．特別支援教育の充実
５．高校教育との連携（檜山北高校・今金高等養護学校）
６．国際理解教育の推進
７．学校給食と食育・食農教育の推進
８．就学前子育て支援の推進

〔社会教育〕

１．家庭や地域の教育力の向上
２．芸術文化の振興
３．子どもの読書活動の推進
４．国際交流の推進
５．総合型スポーツクラブの運営支援

種川・鈴金へき地保育所入所式

４月１２日（月）、種川と鈴金へき地保育所の入所式がありました。両保育所とも１２名の幼児の皆さんが元気に入所式を迎えました。それぞれ２名の保育士体制です。（種川へき地保育所は、中村先生・村瀬先生、鈴金へき地保育所は、三上先生・平尾先生）



この４月から教育委員会の所管となったこともあり、挨拶とともに保護者の皆さんに経過のお話もさせていただきました。

種川保育所は、種川小学校の坂田校長先生が所長を務めて頂き、小学校の学校行事（運動会・学習発表会）と併せた保育活動も行われます。鈴金保育所は、金原小学校が統合により既に閉校になっていることから今金保育所の館野所長が所長を兼務し、金原自治会の事業（いきいき運動会・敬老会等）などへの参加を通じた保育活動と交流が行われます。



入所式には、種川自治会の内ヶ島会長さん、金原自治会の三上会長さんも出席頂き、幼児達や保護者への歓迎の言葉と共にそれぞれの地域のお話も頂きました。ありがとうございました。

へき地保育所は、４月から１１月末までの農繁期の開所となりますが、地域自治会や学校、ボランティアなど多くの皆さんの温かい支援と愛情で子ども達の成長をみつめて下さいます。また、この日は入所のプレゼントとして町内の読み聞かせグループ「マザーズポケット」の読み聞かせのつどいが種川へき地保育所で行われ、子ども達はしばし童話の世界を満喫するひとときとなりました。



委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、岩坂教育委員です。

～わが家の味～

道路わきにはまだ雪の残る今金の地を後にして、息子と娘の住む千葉県へ向かったのは４月の中旬でした。私たちは函館からフェリーに乗り青森に着き、そこから約１０時間のドライブが始まりました。フェリーが函館港を出港したのが夜７時で青森には１１時に到着、いつもならもうそろそろ寝る準備をし始めるころです。本州の高速道路のサービスエリアは真夜中でも開いていてくれます。ゴールデンウィークなどはテントを立て祭りに着る半てんを着た売り子さんたちが、ご当地の名産品を声高らかに売っているのです。盛岡では串に刺したこんにゃく玉を頬張り、仙台では笹かまぼこや牛タンに舌包みを打ち、各サービスエリアで鋭気を養いまた走り始めるのです。途中で眠くなったら仮眠を取り、そうこうしているうちに東の空がうっすらと白み始めるとあっという間に明るくなり、今まで真っ暗で見ることができなかった桜の花が満開に咲いているのを見ることができました。それはもう美しく淡いさくら色の花びら、そして頬に当たる風の匂いは北海道の初夏を思わせてくれました。







さすがに主人だけに運転を任せるのは可哀そうと思い、わたしも申し訳程度に交通量の少ない区間を少しだけ運転しました。

今金を出る前に娘からメールで母さんの手料理が楽しみと書かれてあり、私は食材を車に積み込み出発したのでした。今年のタケノコやふき、行者ニンニクにはまだ早く、持っていくことはできませんでしたが今金の長いもや瀬棚のり、大成のするめいかの塩辛など子どもたちの好物をあれも、これもクーラーパックに詰め込み持って行きました。

子どもたちは独立し親元を離れたのですが、生活してきた習慣や味覚は少しも変わっていませんでした。むしろ、ますます私たちの味覚に近づいているように感じました。滞在中は美味しいものでお酒を飲み、遅い時間まで話し込む日が続きました。

家族みんなで手分けして料理を作る時の匂い、音、料理ができるまで待つ時間そして味、それぞれの五感に働きかける作用は体と心を十分に癒してくれました。

冬には冬の、春には春のそれぞれにおいしい食べ物が出回る旬の食材を味わいながら、家族みんなが元気でいられることに感謝し、これからも健康に暮らせることを願い帰路に着きました。



子どもたちは味覚をとおして故郷を思い、故郷を懐かしむのだと実感した旅でした。

プルタブ回収事業「児童用車椅子」の寄贈

去る、４月１３日（火）今金町社会福祉協議会（加藤　要会長さん）からプルタブ回収事業で児童用車椅子が教育委員会に寄贈されました。この車椅子は、今金小学校に配置すると共に、児童用の各種事業の不慮の事故等に活用させていただきます。ありがとうございました。

